

三浦綾子『母』と

演出家・ 守分寿男の仕事

◆ 同展関連普及事業 (敬称略)

◇ 朗読と音楽の調べ—三浦綾子『母』とカンテレの音色

[日時] 2017年2月26日(日) 13:00開始 [料金] 参加費無料(要観覧料)

[出演] 安藤 千鶴子(音声表現講師/元・北海道放送アナウンサー)、あらひろこ(カンテレ奏者)

◇ 守分寿男作品上映会「いのちの記憶」

[日時] 2017年3月5日(日) 13:00開始

[解説]「北からの発信、表現者、守分寿男のこと」長沼修(株)札幌ドーム社長/前・北海道放送社長/プロデューサー [料金] 参加費無料 [協力]北海道放送

ニセコ町・有島記念館 〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地 TEL 0136-44-3245

2017年1月28日(土)～10月9日(月・祝) 9:00～17:00(入場は16:30まで)月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)5月から9月は無休

◆ 常設展観覧料：一般500円(400円)/高校生100円 中学生以下と65歳以上のニセコ町民は無料 ※()は10名以上の団体料金・JAF会員割引

◆ 年間パスポート：一般800円、高校生200円(発行日から1年間有効)

[主催]ニセコ町・有島記念館 [協力]三浦綾子記念文学館

北海道・旭川を拠点に、キリスト者としての信仰を投影した『氷点』や『塩狩峠』などの作品を生み出した小説家・三浦綾子[1922(大正11)年～1999(平成11)年]。三浦の『母』は、有島記念館がある後志地域ゆかりの小説家・小林多喜二[1903(明治36)年～1933(昭和8)年]の母親である小林セキの口を通し、多喜二の生涯、そして小林家やセキ自らの波乱に富んだあゆみを語る作品です。

この『母』の芝居を軸として、多喜二の生涯に迫った映像ドキュメンタリー作品に『いのちの記憶』(2008年・HBC制作・平成20年度文化庁芸術祭テレビ部門大賞受賞)があります。この作品の構成と演出とを手掛けた守分寿男[1934(昭和9)年～2010(平成22)年]は、北海道放送(HBC)にてテレビドラマ草創期から演出家として活動。守分は、北海道でしか制作できな

いドラマ作品―「北のドラマ」―とは何かと一貫して自らに問い続け、その時代の社会的状況にも目を向けながら作品を生み出し、全国的に高い評価を得ています。また、三浦原作の『羽音』(1969年)も演出し、互いに親交を深めていました。

守分は、代表作である『幻の町』(1976年)のほか、『わかれ』(1967年)、『あかねの空』(1980年)、『コスモス』(1981年)、『悠々たる天』(1984年)など多くの作品を後志地域を舞台に演出しており、後志ゆかりの演出家でもあります。

本展では、三浦綾子の作品『母』と、三浦作品の映像化や後志にゆかりのある作品を演出した守分寿男に焦点をあてます。同時に2012年から有志により整理作業が続けられている守分寿男旧蔵資料を守分家の協力を得て展示し、北海道映像史において重要な位置を占める守分の仕事を振り返ります。



三浦綾子
(写真提供:三浦綾子記念文学館)

三浦綾子 1922(大正11)年～1999(平成11)年 小説家

北海道旭川市生まれ。1939(昭和14)年、旭川市立高等女学校卒業後に小学校教員を務めるが、敗戦後に軍国主義教育の過ちに気づき退職。肺結核などの病魔のなかにあり受洗。1964(昭和39)年、朝日新聞社大阪本社85周年・東京本社75周年記念の1000万円懸賞小説に『氷点』を投稿して入選。朝日新聞紙上にて連載を開始し、単行本はベストセラーとなる。その後も病弱な身を押し、『塩狩峠』(1968年)、『細川ガラシャ婦人』(1975年)、『天北原野』(1976年)、『母』(1992年)、『銃口』(1994年)など、キリスト者としての信仰を投影した小説作品やエッセイなどを発表。1999(平成11)年没。1998(平成10)年、旭川市に三浦綾子記念文学館が開館し、三浦の作品の魅力やその生涯を多くの人々に伝えている。



守分寿男
(写真提供:守分家)

守分寿男 1934(昭和9)年～2010(平成22)年 演出家

大分県竹田町(現・竹田市)生まれ。幼少時に父の転勤に伴い北海道に移住。1957(昭和32)年、小樽商科大学卒業後、北海道放送(HBC)に入社。テレビ草創期の生放送ドラマの演出助手やドキュメンタリー演出などを経て、1962(昭和37)年、ドラマ「不知道」で演出家デビュー。以降、『ばんえい』(1973年・芸術祭優秀賞、ギャラクシー個人演出賞)、『幻の町』(1976年・芸術祭優秀賞)、『あかねの空』(1980年・芸術祭優秀賞)などの演出作品が高い評価を得るほか、ドラマ作品などのプロデュースや劇団民藝公演『匠』の演出などを手掛ける。遺作となった『いのちの記憶 小林多喜二・二十九年の人生』(2008年)では平成20年度文化庁芸術祭テレビ部門大賞を受賞している。2010(平成22)年没。著書に『さらば卓袱台』(2008年・かもがわ出版)がある。

(敬称略)

同展関連普及事業

◆ 朗読と音楽の調べー三浦綾子『母』とカンテレの音色

[日時] 2017年2月26日(日) 13:00開始

[料金] 参加費無料(要観覧料)

[出演] 安藤 千鶴子(音声表現講師/元・北海道放送アナウンサー)
あらひろこ(カンテレ奏者)

(敬称略)

◆ 守分寿男作品上映会「いのちの記憶」

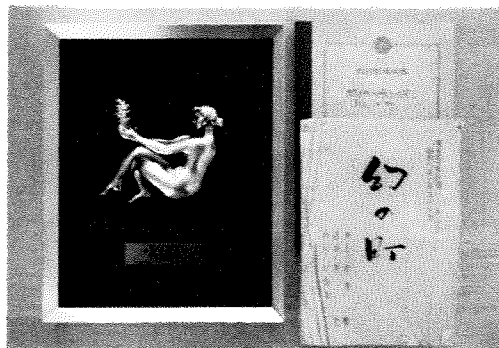
[日時] 2017年3月5日(日) 13:00開始 [料金] 参加費無料

[解説] 「北からの発信、表現者、守分寿男のこと」長沼 修

(札幌ドーム社長/前・北海道放送社長/プロデューサー)

[協力] 北海道放送

(敬称略)



後志を舞台とした『幻の町』で守分が使用した脚本やノート、同作が芸術祭優秀賞を受賞した際に贈呈された楯

ニセコ町 有島記念館

北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地 TEL.0136-44-3245

[交通アクセス] 自家用車 ▶ 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間
J R ▶ ニセコ駅より徒歩約30分(約2.5km.)、タクシー5分
バ ス ▶ 道南バス[倶知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分

[駐車場] 自家用車用約30台・大型バス用約15台完備

[常設展観覧料] 一般500円、高校生100円10名以上の団体は400円。
中学生以下とニセコ町在住の65歳以上は無料。

